

「最も重要な掟」

2014年10月29日

マルコによる福音書 12章 28節～34節。 彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」律法学者はイエスに言った。「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』とおっしゃったのは、本当です。そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています。」イエスは律法学者が適切な答えをしたのを見て、「あなたは、神の国から遠くない」と言われた。もはや、あえて質問する者はなかった。

主イエスを陥れようとするファリサイ派、ヘロデ派、サドカイ派の人々が論争を仕掛けてきたが、無残に論破された。これを聞いていた一人の律法学者が「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか」と問うた。この間には悪意はなく、主イエスの神殿当局との論争に感嘆し、真面目に尋ねたものであろう。当時、六百以上の掟があり、煩雑を極め、どれが大切なのかを見失うような状態であった。主イエスは「第一の掟は、『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。(申命記 6章 4節、5節)』第二の掟は、『隣人を自分のように愛しなさい。(レビ記 19章 18節)』」と答え、「この二つにまさる掟はほかにない」と言われた。答えを聞いた律法学者は背筋を伸ばし「先生、おっしゃるとおりです。『神は唯一である。ほかに神はない』とおっしゃったのは、本当です。そして、『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する』ということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています」とホセア書 6章 6節の言葉を加えて、応じた。主イエスは「あなたは、神の国から遠くない」と優しく言われた。神殿境内で侃々諤々の議論がなされたが、主イエスの巧みで、真髓をついた返答を聞いて、論争を挑む者はいなくなった。

主イエスは、六百以上もある掟を「神を愛する」と「隣人を自分のように愛する」の二つの掟に集約された。この二つの掟に従って、愛に生きる生涯を送られた。煩雑な掟を持つ社会は人間管理が進み、生き苦しく、掟の少ない社会は互いを信頼し、開放されている。

第一の「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」という掟は上なる神と結びつき、自分のアイデンティティを確保する。第二の「隣人を自分のように愛しなさい」という掟は横にいる隣人と結び合う。縦と横が交差した愛に生きる掟である。ところが、現実の生活において「神を愛する」、また「隣人を愛する」ことはどうすることなのかが分からない。愛したつもりが愛にならなかったことをしばしば経験する。パウロはコリント(一) 13章の「愛の賛歌」で「愛は…すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える」と書いている。愛は大上段に構えることではなく、隣人を忍耐強く受け入れ、新しい創造を信じて、望むことではないか。それは、神に深く祈ることから生まれてくる。